Ne -	1	十尺 软杆油					- 1
学年		د	専門課程 2		A 2. \		
科目	)	人文科学概論			含む)		
科目担当者			平瀬芳美				
単位数・年間時間数		2	2 単位・3 (	) 時間			
授業の方法			講義				
使用教科書	鍼:	<b>灸臨床におけ</b>	る医療面接	拡大版(丹海	睪章八)		
使用参考書			なし				
評価 方法	前・後期ともに期末に 当該学期の評価点とし 下は切り捨て)です。 です。定着度の確認に	ノます。学年ラ この学年末請	ド評価は、育 呼価が60点	f期と後期の i以上である	評価点の平 ことが単位	均点(小数	太点以
科目の概要と学習の目的	この科目では、主にB (1) 医療面接につい (2) 接遇について (3) 上記以外の内容 3については、クラ	ヽて(接遇実技 (外部講師に。 拏(例:パソコ	支を含む) よる特別授業 コンの基礎矢	を含む) 『識、文芸等》			
授 業 の 展 開	授業は教科書や補助資自己学習による復習を る健康具等について テーションを経て実施 に応じて変更する事が	としておくとこ 青報提供を行う をします。なれ	スムースです うことがあり	<sup>-</sup> 。授業の中 <sup>・</sup> ります。実技	で、一般には、事前説	話題になっ 明やオリエ	てい
自己学習の進め方	利用者の皆さんには彼	复習を軸にした	と学習習慣 <i>の</i>	)形成を期待	します。		
授業	内 容	(	予	定	)	合計 30年	時間
前	期 <	16	週	>		前期計	16
1 人文科学概論オリエ	ンテーション					1	
2 医療面接(解説編)							
(1)復習(実践編、	墨字:18∼69頁、DAISY	:12~44頁、点	京字:第1巻	)		2	
(= / = /2 0 : / = //	接(墨:72~95、D:	• • • • • • • • • • • • • • • • •	<b>210</b>	<u> </u>		1	
	ュニケーション(墨:9					1	
(4) コミュニケーシ	ョンの実際(墨:112~	117、D:76~	80、点:78	~90)		1	
(5)ことば遣い(待)	遇表現、敬意表現)(	墨:117~122,	D:80~83,	点90~99)		2	
(6)方言、身だしなる	み、環境整備(墨:123	∼128、D∶84	~87、点99	~108)		1	
(7)質問法(墨:131~	~140、D:89~94、点	: 115~131)				2	
(8) 傾聴(墨:141~)	164、D:96~111、点:	: 133~173)				2	
	る特別授業を含む)	*コミュニケ	ーション(	3時間)		3	
4 期末試験	Ha /	1.4	\mathrew (1994)			&// <del>11</del> 0 ⊃ 1	1.4
	期 < 	14	週	>		後期計	14
1 医療面接(続き)	· / 用 · 100   T ·	110 100 H	Mr.o. 3/6 +	47)			
<u> </u>	ル(墨:166~189、D:					2	
(2) 患者への説明、						1	
(3) 患者への対応(*		*		(9~122)		2	
(4)医療面接学習編				on-t- HP\		2	
2 接遇実技(臨床実習)	における思者対応)	*コミュニケ	ーション(	)時間)			
(1)シナリオ確認	N. 11 . 22 .					1	
(2) オリエンテーシ						3	
(3) 患者対応ロール:						1	
(4) 反省、フィード	ハック					1	
3 その他						1	
4 期末試験				これ目体にし			

		1	- G HP G	一						
学	年				専門課程2	2年				
科	目				社会科学	既論				
科 目 担	当 者				河原塚 由	紀				
単位数・年間	時間数				2 単位・3 (	) 時間				
授 業 の	方 法				講義					
使 用 教	科 書				なし		_			
使 用 参	考 書				なし					
評 価 方	法	当該学期の	)評価点とし	に「評価及 をます。学年 この学年末	末評価は、育	前期と後	期の評値	<b>町点の平均</b>	匀点(小数	太点以
科目の概要と学	習の目的		っに、情報を	通じて、視覚適切に収集						
授業の	展開	め、各項目	頁では前回の 目ごとに習得 ☆で理解を深	授業の要点を 度を確認し とめます。	を復習しますます。習得な	ナ。授業 バ不十分	はカルラ な <del>場</del> 合に	テ作成を目 は可能な関	目標におい 艮り繰り返	いて進
自己学習の	進め方	ため利用者	音の皆さんに もたは学習バ	「ので、授業 」は技術がよ パソコン室に	り早く定着で	できるよ	う、1回	につき短	時間でも	良い
授	業	内	容	(	予	定	)		合計 30	時間
前	j	期	<	16	週		>		前期計	16
パソコンによる	情報処理									
①ガイダンス									1	
②パソコンの	仕組み								2	
③キーボード	操作と音	声ソフト							6	
<b>④パソコンソ</b>	フトの実際	祭							3	
⑤パソコンの	活用								3	
期末試験										
期末試験の講評									1	
後	ţ	期	<	14	週		>		後期計	14
パソコンの理療	への活用									
①理療におけ	るパソコ	ン利用の目	的と意義(ス	カルテ作成)					11	
②理療援助の	支援システ	テム							1	
③その他の支	援システ.	<u>ــــــــــ</u>							1	
期末試験										
期末試験の講評									1	

学 科		年		i .									
科							専門制	程2年	•				
		目						学概論	ì				
科目	担	当	者				武田	田和男					
単位数・	年	間時	間数				2 単位・		間				
授業	の	方	法				討	義					
使 用	教	科	書			印刷された	<b>:</b> プリン	トや教皇	玄実験	・ビデオ	<sup>†</sup> 視聴		
使 用	参	考	書	「空	気の発見」	「発明発見	物語」	「生命4	6億年	Fの旅」 	「地球大進	纟化」	
評の	<b>f</b> i	方	法			:後期の期末 ミ評価が60							捨
科目の概要	要と	学習 0	の目的	原子と分子 り、原子レ と生命の進	ベルから地	その基本構造 は球の生命活 ミす。	を形成し 動がある	ンその変 ることを	化に』 理解し	tって生 ノ <b>、地球</b>	命活動が維 史レベルの	推持され )時間の	uてお )流オ 
授業	Ø	展	開	毎時間印刷より授業を		れたテキス 。	トの音割	売による	理解と	こ、ビデ	才教材の徒	穗、美	を験に
自己学	習 0	進	め方	毎時間の授	業に集中し		め、試験	食前に総	合的區	<u>で</u> ででである。 でである。	てください	١,	
	<u> </u>		 業	<u> </u> 内		(	予		Ė	)	台	計 305	
	前				<	16				>		前期計	
丁先生漢		ており		**			<u> </u>			<u> </u>	1,4	3	
歌う生物		• • • •		/								•	
	<b></b> ''	植物)										3	
		植物)										3	
土と触れ	る											1	
土と触れ あなたの	る 体は											1 2	
土と触れ あなたの 免疫革命	る 体は	9割2	潜略	ベエ								1 2 2	
土と触れ あなたの 免疫革命 ファーブ	る 体は ル昆	9割2	潜略	ベエ								1 2 2 1	
土と触れ あなたの 免疫革命 ファーブ 動的平衡	る 体は ル昆	9割加虫記	が細菌									1 2 2 1 1	
土と触れあなたの免疫革命ファーブ動的平衡深海で生	る 体は ル昆 命の	9割x 虫記 ルーツ	が細菌 キンパンを探る	3								1 2 2 1 1	
土と触れ あなたの 免疫革命 ファーブ 動的平衡	る 体は ル昆 命の 巨	9割x 虫記 ルージ 大地窟	が細菌 キンパンを探る	3								1 2 2 1 1 1	
土と触れあなたの免疫革命ファーで動物でを変する。 これ 変 事 が 平 集 まとめの	る体はル昆の巨間	9割x 虫記 ルージ 大地窟	が細菌 キンパンを探る	3								1 2 2 1 1	
土と触れ あなたの 免疫革命 ファ平衡 歌的で生 宇宙誕生	る体はル昆の巨間	9割x 虫記 ルージ 大地窟	が細菌 キンパンを探る	3								1 2 2 1 1 1	
土と触れあた。東京の一般では、一般では、一手ででは、一手ででででででででででいまります。 一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、	る体ル命時ト後	9割対 虫記 ルーツ 大地原	が細菌 キンパンを探る 夏のメス	3	<	14	3	週		>	ê	1 2 2 1 1 1	14
土と触れの免アが一次でででででででいる。	る体ルの巨間・後地	9割対 虫記 ルーツ 大地層	が細菌 キンパンを探る 夏のメス	<b>る</b> カニズム	<	14	3	<b>周</b>		>	ê	1 2 2 1 1 1 1	14
土と触れ あな疫フ動深宇ま 動深 宇 ま 助 期 リ タ フ り の 海 も も り ア り の り 海 も も り ラ フ り り う ス う り う ろ り う ろ り う ろ り ろ り う ろ り ろ り ろ り	る体ルの巨間・麦地大	9割が出まれています。 タリング リング リング リング リング リング リング リング アン・カー・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	が細菌 キンパンを探る 夏のメス	<b>る</b> カニズム	<	14	)	周		>	ê	1 2 2 1 1 1 1 1	14
土と触れの免フ動深宇まがのの命でで変化を変化している。 できる かんしょう かんしょう かんしょう かんしょう しゅう かんしょう しゅう かんしょう しゅう しゅう かんしょう はんしょう はんしょく はんし はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしょく はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんしん はんし	る体ルの巨間・麦地大	9割が出まれています。 タリング リング リング リング リング リング リング リング アン・カー・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	が細菌 キンパンを探る 夏のメス	<b>る</b> カニズム	<	14	3	<b>週</b>		>	8	1 2 2 1 1 1 1 1 1	14
土と触れの免フ動深宇ま前のアの命でを選めテストの大ののののでででいるのののではなりである。	る体ル命時ト後地大1	9割が大地震等を3	が細菌 キンパンを探る 夏のメス	<b>る</b> カニズム	<	14	)	<b>週</b>		>	ê	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1	14
土となりでは、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、おり、	る体ル命時ト後地大1	9割が大地震等を3	が細菌 キンパンを探る 夏のメス	<b>る</b> カニズム	<	14	;	<b>周</b>		>	ê	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 3	14
土となって動深宇ま前ワロ地ま地まれの命ブ衡生生のスタリ大め大め	る体ルの巨間・素化化	9割が出来の大地震を発生している。	が細菌 キンパンを探る 夏のメス	<b>る</b> カニズム	<	14	3	<b>T</b>		>	8	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 3 1	14
土あ免フ動深宇ま前 ワロ地ま地ま種 を触た革一平で誕めテ ムロ大め大め起 のカン・酸進	る体ルの時ト後地大1	9割が 虫 ルナ 質発 ~ 3 ~ 6 いて	お細菌 キンパン それ アン・カー・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	る カニズム	<	14	3	<b>週</b>		>	É	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 3 1 3	14
土あ免フ動深宇ま前 ワロ地ま地ま種 を触た革一平で誕めテムロ大め大め起 のより、一次では、地のののでででででででででいます。	る体ルの時ト後地大1	9割が 虫 ルナ 質発 ~ 3 ~ 6 いて	お細菌 キンパン それ アン・カー・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	<b>る</b> カニズム	<	14	;	<b>III</b>		>	8	1 2 2 1 1 1 1 1 1 1 3 1 3 1	14
土あ免フ動深宇ま前 ワロ地ま地ま種 を触た革一平で誕めテムロ大め大め起 のより酸進	る体 ルー命 時ト 後地大1 4 つメ	9割が 由 ルナ地 質発 - 3 - ~ 6 いなあれ	お細菌 キンパン それ アン・カー・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	る カニズム	<	14	)	<b>周</b>		>	Ê	1 2 2 1 1 1 1 1 1 3 1 3 1 3	14
土あ免フ動深宇ま前 ワD地ま地ま種遺新まとな疫ァ的海宙と期 タV球と球との伝型と触た革一平で誕めテ ムD大め大め起子コめのかが衡生生のス シ酸進 進 源は口の	る体 ルー命 一時トー後 地大1 1 つメと間	9割が 由 ルナ地 質発 - 3 - ~ 6 いなあれ	お細菌 キンパン それ アン・カー・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	る カニズム	<	14	;	<b>周</b>		>	ê	1 2 2 1 1 1 1 1 1 3 1 3 1 1	14
土あ免フ動深宇ま前 ワD地ま地ま種遺新とな疫ァ的海宙と期 タV球と球との伝型船た革一平で誕めテ ムD大め大め起子コン酸進 進 源はロ	る体 ルー命 一時トー後 地大1 1 つメと間	9割が 由 ルナ地 質発 - 3 - ~ 6 いなあれ	お細菌 キンパン それ アン・カー・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・	る カニズム	<	14	)	周		>	ê e	1 2 2 1 1 1 1 1 3 1 3 1 1 1 1	14

	子		牛					<b>専門</b> 群	程 2 4	<del></del>			
	科		目					保健	体育				
科	目	担	当	者				新	八吉				
単位	数 •	年	間時	間数				1 単位・	301	時間			
授	業	の	方	法				実	技				
使	用	教	科	書				な	に				
使	用	参	考	書				な	に				
評	· 但	<b>i</b> :	方	法	観察部	己録法により	)評価します。						
科目の	の概要	<b>€と</b> ª	学習(	の目的	施術者 動を実践	手として必要 <b>もし、これ</b> を	見な健康・安全 と施術に応用す	さや身体運 「る能力と	動になり	ついて学 を習得す	≥び、健康の( <sup>-</sup> る授業です。	呆持増進のた	とめ運
授	業	Ø	展	開	授業 <i>0</i> 毎回習得	)冒頭では前 身度を確認し	前回の授業の復 ン、不十分であ	<b>望をし、</b> かれば繰り	また <b>!</b> 返し <b>!</b>	受業では東習する	は各種目の完成 うことで理解を	成を目指しま を深めます。	きす。
自己	2 学	習の	進	め方	授業でり軽くよ	ごスムーズに トレーニンク	<b>こ身体を動かす</b> 「を行ってくた	ことがで ざい。	きる。	ように、	またケガの	予防のためほ	頃よ
	授			業	内	容	(	予		定	)	合計 30	時間
		前		ţ	朝	<	16	ij	围		>	前期計	16
フラ	イン:	ヷデ	イスク	ク								4	
陸上	競技											2	
球技												3	
スト	レッ	チ体	燥									3	
レク	リエ	ーシ	ョン									3	
講義	i											1	
		後			朝	<	14	i	<b>1</b>		>	後期計	14
	上競	支										4	
	技											2	
	クリ		ション	ン <u></u>								1	
ボ	ッチ	۲										3	
講	義											1	
タ	ーゲ	ット	バー	ドゴルフ	フ							3	
									_				
		-		-									

学 年	専門課程2年	
科 目	生理学Ⅱ	
科目担当者	山本 浩二	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
授業の方法	講義	
使 用 教 科 書	盲学校理療科標準教科用図書 生理学 第3版 7届 (盲学校理療教科用図書編纂委員会編・佐藤優子ほ	
使 用 参 考 書	東洋療法学校協会編 生理学	
評価 方法	前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく 当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の 下は切り捨て)です。また、単位修得に関わる評価ではありません 自主学習状況の把握のため、授業内の口頭試問などを随時行います	)平均点(小数点以 ,が、知識の定着や
科目の概要と学習の目的	生理学は体の正常な働きについて学習する科目です。生理学Ⅱでは 長と老化、神経、筋、運動、感覚、生体の防御機構、身体活動の協 し、施術に応用する能力と態度を修得することを目的とします。	t内分泌、生殖・成 お調について学習
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えをします。授業は教科書に沿って進め、要点を整理し、他科目と関 に説明します。	て知識定着の確認 ]連付けられるよう
自己学習の進め方	毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される項目ごとの国家試度も回答して問題に慣れましょう。また、わからないところを自らるように努めて下さい。	、験過去問題集を何 う見つけ、質問でき
授業	内 容 ( 予 定 )	合計 90時間
前	朔 < 16 週 >	前期計 48
第8章 内分泌		15
第9章 生殖・成長と老化		8
第10章 神経		22
復習、その他		2
期末試験		
期末試験講評		1
	朝 < 14 週 >	後期計 42
第11章 筋		8
第12章 運動		10
第13章 感覚		12
第14章 生体の防御機構		5
第15章 身体活動の協調		4
復習、その他		2
期末試験講評		1
	※担果な知る 棚 中政保険のよる 数目体 にして 極楽的	「ロペーナの棚にへら

N.	<u> </u>	<b>j</b>					# 011	<b>細心 ^</b>	Æ				
	<u>*</u>	年						課程 2					
	<u>斗</u>	目	_8.4					里学概記					
	1 担	当	者					原恵子					
単位数							2 単位		時間				
授	後 の	方						講義					
使月	教	科	書	疾病の成	り立ちと予	防Ⅱ病理	!学概論	改訂領	育7版	第1巻	(オリコ	ンス研究会	*)
使月	多	考	書	疾病の成	り立ちと予	·防Ⅱ 病理	!学概論	改訂第	育7版	第2巻	(オリコ	ンス研究会	*)
評	価	方	法	前期、後期 い、その平: は、前期と 60点以上で	均点(小数 後期の評価	点以下は好 点の平均点	ワり捨て ネ(小数	)を当 点以下	該学期は切り	別の評価	i点としる	ます。学年末	卡評値
科目の根	既要と	学習(	の目的	病理学とは 経過・死の 施術者とし と態度の修	原因などを て必要な疾	究明する学 病の本体や	≥問です						-
授業	単 の	展	開	授業の冒頭度に合わせて問題演習	発問を交え	て知識の確							
自己等	学習の	)進	め方	疑問がある。 軸にした学				認して	くださ	い。利	用者のも	皆さんには復	复習る
	授		業	内	容	(	予		定	)		合計 60	時間
	前		ţ	朝	<	16		週		>		前期計	32
ガイダ	ンス説	明										1	
第1編	病理学	≠の基	礎									3	
第2編	病因												
内因												5	
外因												7	
第3編	病変												
循環	障害											8	
退行	性病変											6	
復習												1	
期末	試験												
期末	試験講	評										1	
	後		ļ	期	<	14		週		>		後期計	28
第3編	病変												
進行	性病変											7	
炎症												4	
腫瘍												7	
免疫	異常											8	
復習												1	
期末試	験												
期末試	験講評											1	
·													
					W.4F	\\\ <i>H</i> ; ⇒1 1 1	88 H7764	7 FA ~ 2	フ払日	AA-1- 1- 1-	7 140 PM AN 10	まけ 右の棚に	- O

学 年	専門課程2年	
科目	臨床医学総論	
科目担当者	関矢 稔	
単位数・年間時間数	3単位・90時間	
授 業 の 方 法	講義	
使 用 教 科 書	生活と疾病Ⅱ 臨床医学総論 第2版 第2刷(黒岩聡ほか	)
使 用 参 考 書		
評 価 方 法	前期・後期の期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(割該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均は切り捨て)です。また、知識の定着や自主学習状況の把握のため、 業内の口頭試問などを随時行いますが、単位修得に関わる評価ではあ	点(小数点以下 確認テストや授
科目の概要と学習の目的	この科目は診察と治療の概要を学びます。具体的には診察方法、診察 査、治療について学びます。この科目の知識は、患者の訴える症状や から原因となる病態や疾患を推論する能力となり、実際の臨床では診 びつけるための知識となります。国家試験だけでなく、臨床でも欠かる 重要な科目です。	所見、検査結果 察から診断へ結
授業の展開	授業は教科書に沿って進めていきます。国家試験に向けての重要事項: ますが、解剖学や生理学、臨床医学各論など他の科目との関連性についまた、単元毎に国家試験の過去問題を演習していきます。あはき 査については実習形式でも行います。	ハても説明しま
自己学習の進め方	授業内で教授した重要事項を中心に復習して下さい。	
授業	内 容 ( 予 定 )	合計 90時間
前	期 < 16 週 >	前期計 48
第1章 診察の概要		2
第2章 診察の方法		
第1節 医療面接		2
第2節 視診		18
第3節 打診		2
第4節 聴診		4
第5節 触診		6
第6節 測定法		9
第7節 神経系の診察		4
期末試験		
講評		1
	期 < 14 週 >	後期計 42
第2章 診察の方法		
第7節 神経系の診察		12
第8節 その他の身体機	館の診察法	9
第3章 臨床検査		10
第4章 治療法		8
第5章 臨床心理		2
期末試験		
講評		1
	※担当校記入欄 宝森経験のおる粉昌等による授業科目	

						O HV CI	午及 教科打				
	学		年					専門課程	2年		
	科		目				理療臨床医	学各論(病	態生理学	さを含む)	
科	目	担	当	者				関矢	稔		
単位	数 ·	年	間時	間数				3 単位・9	0 時間		
授	業	の	方	法				講義	ì		
使	用	教	科	書	生活	と疾病Ⅲ 闘	<b>基床医学各論</b>	第4版(	言学校理:	療教科用図	書編纂委員会)
使	用	参	考	書							
評	佂	fi	方	法	該学期の割 切り捨て)	F価点としま です。また	ます学年末評 ≿、知識の定	価は、前期 着や自主学	と後期の  習状況の	)評価点の平 )把握のため	験(評価)を行い、当 均点(小数点以下は 、確認テストや授業 ありません。
科目6	の概要	更と	学習	の目的	この科目の となり、実 適否を判め	の知識は、名 医際の臨床で	F疾患の発症 では、診察所 ○知識となり	機序を理解見から施術	といい。 対象組織	、発生の責任 最を適切に選	の概要を学びます。 組織を推察する能力 択する、また施術の 床でも欠かせない知
授	業	の	展	開	容について 料を希望媒	ては発問をな 体で配布し	とえて知識の	確認をしま	す。大き	な単元の終	中心に進め、既習内 すごとにまとめの資 集のジャンル別問題
自己	上学	習 0	の進	め方	利用者の皆	行さんには後	夏習を軸にし	た学習習慣	の形成を	☆期待します	
	授	į.		業	内	容	(	予	定	)	合計 90時間
		前		ţ	朝	<	16	週		>	前期計 48
1 基	を形タ	科努	を患の	病態生	理及び診断	ī、治療 ¾	637時間うち	14時間:病	態生理学	を含む	
①関	節疾	患									8
2骨	代謝	性疾	患・	骨腫瘍							4
③筋	・腱	疾患									2
④形	態異	常									4
⑤脊	椎疾	患									7
<b>⑥脊</b>	髄損	傷									2
⑦外	傷										8
<b>®</b> そ	の他	の整	形外	科疾患							2
2 神	申経疫	患の	つ病態	生理及	:び診断、治	療 ※10時	持間うち5時間	引:病態生3	里学を含む	tr	
①脳	血管	疾患									7
②感	染性	疾患	及び	脱髄性	<b>灰</b> 患						3
期末	試験										
講評											1
		_	_	_				_		_	

後期 < 14 週 >	後期計	42
2 神経疾患の病態生理及び診断、治療 ※前期続き ※29時間うち10時間:病態生理学を含む		
③脳脊髄腫瘍	2	
④変性疾患	6	
<b>⑤認知症</b>	4	
⑥筋疾患	3	
⑦運動ニューロン疾患	2	
⑧末梢神経疾患	5	
⑨神経痛	3	
⑩頭痛	4	
3 一般外科(病態生理及び診断、治療) ※うち5時間:病態生理学を含む	7	
4 麻酔科・ペインクリニック(病態生理及び診断、治療) ※うち1時間:病態生理学を含む	5	
期末試験		
講評	1	

※担当係記入欄 実務経験のある教員等による授業科目は、右の欄に〇印

学 年		専門	<b>課程2年</b>	
 科 目			···	
科目担当者			· 博明	
単位数・年間時間数			• 9 0 時間	
授業の方法			<b>講義</b>	
	<b>甘水和桂丝</b>			- リーンタが外入)
使用教科書		R件医学慨篇 哎訂 ———————	第6版 第2刷 (オ 	- リエンス研究会) 
使用参考書	<b>第</b>	新版 東洋医学概論	東洋療法学校協会	会 <b>編</b>
評価 方法	価)を行い、その平均点	<ul><li>(小数点以下は切期の評価点の平均。</li></ul>	Jり捨て)を当該学 点(小数点以下は切	第3条に基づく試験(評 期の評価点とします。学 切り捨て)です。この学年
科目の概要と学習の目的	本授業では、東洋医学 つ効果的に行う知識・			事項、あはき施術を適切か
授 業 の 展 開	授業の冒頭では前回の まとめます。授業は教 使って知識の確認を行	科書を中心に進め、	します。授業終了前 、既習内容についっ	前の5分間で今回の要点を Cは国家試験の過去問を
自己学習の進め方	Iの知識を必要としま	すので、各科目の?	复習をしておいてく	圣穴概論 I 、東洋医学概論 ください。また、本授業の 支術の向上にも期待しま
授 業	内 容	(  予	定	合計 90時間
前	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	16	週 >	前期計 48
1年次の総復習				12
第3編 東洋医学の疾病				
第1章 病因論				4
第2章 病機				1
第3章 病理・病証論				20
第4編 診断論				
第1章 診察法の概要				1
第2章 四診法				8
総括的評価(中間試験・非	胡末試験)			
総括的評価の解答解説				2
後		14	週 >	後期計 42
第4編 診断論				
第2章 四診法				23
第3章 証の立て方				3
第5編 治療論				
第1章 東洋医学におん	 ける治療原則			3
第2章 鍼灸治療				6
第3章 日中鍼灸医学の				1
第4章 手技療法	· 14 bz.			2
第6編 東洋医学の沿革				2
総括的評価(中間試験・非	胡末試験)			
総括的評価の解答解説				2
	\•/ L-	IV K 크그 + HB H-Ph/M	<b>松のより払月が</b> に 5	マで味めては、十つ種につ豆

学 年 専門課程2年 科 目 担 当 者
科 目 担 当 者
単位数・年間時間数 2単位・60時間 授業の方法  使用教科書 新版経絡経穴概論拡大版第2版(日本理療科教員連盟・公益社団法人)  使用参考書  前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点し下は切り捨て)です。また、単位修得に関わる評価ではありませんが、知識の定着・自主学習状況の把握のため、授業内の口頭試問などを随時行います。  経絡経穴は体内と皮膚の関係に着目した東洋医学的概念です。この科目では、はりきゅう施術に応用するための経絡経穴の基本的事項について学習し、施術を適切か効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。  授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨りに繋がるように取ったがいます。  十四経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましょう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される5目ごとの国家試験過去問題集を何度も解答して問題に慣れましょう。また、わから方面では、1円20円間に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円間に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましょう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましまう。また、わから方面では、1円20円に関に関れましまります。1円20円に関に関れましまります。1円20円に関に関れましまります。1円20円に関に関れましまります。1円20円に関に関れましまります。1円20円に関係では、1円20円に関係
授業の方法 講義 使用教科書 新版経絡経穴概論拡大版第2版(日本理療科教員連盟・公益社団法人) 使用参考書 前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点見下は切り捨て)です。また、単位修得に関わる評価ではありませんが、知識の定着・自主学習状況の把握のため、授業内の口頭試問などを随時行います。  経絡経穴は体内と皮膚の関係に着目した東洋医学的概念です。この科目では、はりきゅう施術に応用するための経絡経穴の基本的事項について学習し、施術を適切か効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。  授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確請をします。授業は主に1年次で割愛した内容を教科書に沿って進め、要点を整理して説明します。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨りに繋がるように取穴を行います。  十四経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましよう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布されるとはで記しまります。また、わから見ごとの国家試験過去問題集を何度も解答して問題に慣れましょう。また、わから見ごとの国家試験過去問題集を何度も解答して問題に慣れましょう。また、わから見
使用教科書 新版経絡経穴概論拡大版第2版(日本理療科教員連盟・公益社団法人)  使用参考書  前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小教点以下は切り捨て)です。また、単位修得に関わる評価ではありませんが、知識の定着自主学習状況の把握のため、授業内の口頭試問などを随時行います。  経絡経穴は体内と皮膚の関係に着目した東洋医学的概念です。この科目では、はりきゅう施術に応用するための経絡経穴の基本的事項について学習し、施術を適切か効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。  授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は主に1年次で割愛した内容を教科書に沿って進め、要点を整理して説明します。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨床に繋がるように取穴を行います。  十四経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましよう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される可能である。  「神経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましよう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される可能である。  「神経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましよう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される可能である。
使用参考書  前期、後期ともに期末に「評価及び試験実施要領」第3条に基づく試験(評価)を行い当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。また、単位修得に関わる評価ではありませんが、知識の定着。自主学習状況の把握のため、授業内の口頭試問などを随時行います。  経絡経穴は体内と皮膚の関係に着目した東洋医学的概念です。この科目では、はりきゅう施術に応用するための経絡経穴の基本的事項について学習し、施術を適切かか効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。  授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は主に1年次で割愛した内容を教科書に沿って進め、要点を整理して説明します。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨床に繋がるように取穴を行います。  中四経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましょう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される可能では過じ、配布される可能では過じます。また、わから対象にである。また、わから対象に対象に関連を重ねましょう。をして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される可能である。また、わから対象に対象に関連を重ねましょう。をして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される可能である。また、もの国家試験過去問題集を何度も解答して問題に慣れましょう。また、わから対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対
評価 方法 当該学期の評価点とします。学年末評価は、前期と後期の評価点の平均点(小数点以下は切り捨て)です。また、単位修得に関わる評価ではありませんが、知識の定着で自主学習状況の把握のため、授業内の口頭試問などを随時行います。  経絡経穴は体内と皮膚の関係に着目した東洋医学的概念です。この科目では、はりきゅう施術に応用するための経絡経穴の基本的事項について学習し、施術を適切かか効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。  授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は主に1年次で割愛した内容を教科書に沿って進め、要点を整理して説明します。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨りに繋がるように取穴を行います。  十四経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましょう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される場合に検討を表する。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される場合に対しまります。また、わから対しては関連に関れましょう。また、わから対しては対しては対しては対しては対しては対しては対しています。また、わから対しては対しては対しては対しては対しては対しては対しては対しては対しては対しては
科目の概要と学習の目的 きゅう施術に応用するための経絡経穴の基本的事項について学習し、施術を適切かか効果的に行う能力と態度を修得することを目的とします。 授業の冒頭では前回の授業の要点を復習するとともに、発問を交えて知識定着の確認をします。授業は主に1年次で割愛した内容を教科書に沿って進め、要点を整理して説明します。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨床に繋がるように取穴を行います。 十四経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましょう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される理点を重ねましょう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される理点を重ねましょう。また、わから対象を重ねましょう。また、わから対象を重ねましょう。また、わから対象を重ねましょう。また、わから対象を重ねましまう。また、わから対象を重ねましまう。また、わから対象を重ねましまります。
授業の展開 をします。授業は主に1年次で割愛した内容を教科書に沿って進め、要点を整理して説明します。主要な経穴において、解剖学的知識と関連付け、人体に触れながら臨床に繋がるように取穴を行います。    中四経脈に所属する361穴の暗唱は自ら継続的に取り組み、要穴の取穴ができるように練習を重ねましょう。そして、毎回の授業で示される要点を記憶し、配布される場合である。    自己学習の進め方 目ごとの国家試験過去問題集を何度も解答して問題に慣れましょう。また、わからた
自己学習の進め方 目ごとの国家試験過去問題集を何度も解答して問題に慣れましょう。また、わからが
いところを自ら見つけ、質問できるように努めて下さい。
前 期 < 16 週 > 前期計 32
1 経絡経穴の概要
①十二正経 2
②要穴の概要 (応用含む) 14
③取穴法 2
2 経穴
十二正経の経穴名と部位 11
復習、その他 2
期末試験
期末試験講評 1
後 期 < 14 週 > 後期計 28
2 経穴
②十二正経の経穴名と部位 ※前期続き 7
3 経絡経穴の概要 ※前期余り
①奇経八脈 3
②要穴の概要(八脈交会穴) 2
4 組合せ穴 2
5 奇穴 6
6 経絡経穴の現代的研究 3
<b>復習、その他</b> 4
期末試験
期末試験       1         1       1

					1										
	学		年							門課程					
	科		目			あん層	<b>を</b> マッサ	ージ指圧	王応用 st	I智	(臨床	実習前語	試験等を含	<b>む</b> )	
科	月	担	当	者				古賀	英樹(	助手:	三浦維	<u>ŧ子)</u>			
単位数	<b>数・</b>	年	間時	間数					4 単位	• 1 2	0時間	1			
授	業	の	方	法						実技					
使	用	教	科	書		保健	理療基礎	<b>進実習</b>	第2版	(都立	文京盲	学校理	療科研究会	<u></u>	
使	用	参	考	書		<u> </u>		者リハI あマ指え					寮教育課編 アル		
評	佃	i	方	法	前期、後期 す。学年末 の学年末評	評価に	t、前期	と後期の	の評価点	気の平	均点 (	小数点	以下は切り		
科目の	概要	[ 논	学習(	の目的	基礎実習で表示なります。	いに組み Rの術式 F式を当	文立てられ た学習し 学習しまで	ιること します。 す。後期	を学習の その後、 以降では	目的と 後期の t症状(	します。 前半に 主に肩や	。前期中 かけて- P腰)に応	項までは外 一定時間内に でいる姿象、	です1年次の 全身の施徒	後習 がで
授	業	Ø	展	開	授業の冒頭 と利用者同 者に施術し 練習するの	l士で^ ますの	ペアを組 つで積極	んで自t 的に手を	己研鑚す を触った	ける時l とり、l	間があ 聞いた	ります。 りして <sup>、</sup>	が者では ください。	モデル役(	の利用
自己	学 <sup>:</sup>	習の	)進	め方	この実習にたいます。特に手順などにないます。	こ診察に ついて後 ことが必	<ul><li>関連する</li><li>で要となる</li></ul>	る解剖学 て実習に る科目で	的構造や 臨んでT す。その	疾患の さい。 ため、	概念、 さらに あん摩	症状、そ 技術の向 合同補習	して徒手権 可上をはかる 習授業(通称	を査法の目的 ためには網	り及び 乗り返
	授			業	内	容	ţ	(	予		定		)	合計 12	0時間
		前		ţ	期	<		16		週		>		前期計	64
基礎集	(智)	の総	復習	(リス:	ク管理を含む	<u>(ئ</u>								11	
腹部の	あん	<b>心摩</b>	(按)	复)										10	
全身^	へのカ	施術												32	
症状別	りあっ	マ指	診療の	の基礎										10	
1.	肩関	節罪	ĥ												
期末記	鄉														
試験の	講	评												1	
		後			<del></del>	<		14		週		>		後期計	56
症状別	あっ	マ指	診療の	の基礎										18	
2. )	腰痛	i													
3.	その	他													
臨床実	習	こ向	けたま	全身施行	 術									19	
臨床シ	/ <u>?</u> :	ュレ	ーシ	ョン(	臨床実習前記	式験を	含む)							18	
期末記					·										
試験の		<b>平</b>												1	
														<u> </u>	
							Section St.		tree I	ATT WA -	2 - 41. 5	·	2 核米型口		

学 年					専門課程	2年	
科目		ì	<b>よりきゅう</b> 原	芯用実習 I (	臨床実習前	試験等を含む)(	(はり実習)
科目担当	者			阿部博	月(助手:村	公田さおり)	
単位数・年間	寺間数			4	単位・12	0 時間	
授 業 の 方	法				実技		
使 用 教 科	・書		銅	成多実技 改訂	「第4版(ス	トリエンス研究会)	
使 用 参 考	書						
評 価 方		験は、実技 学期中に行	試験を実施 う随時試験	します。平位の結果によっ	常点は、授 の算出しま	業に取り組む態度	評価します。学期末試 (観察記録法) 及び各 平均点を学年末評価と で実施します。
科目の概要と学習	の目的	て、臨床実 鍼、円皮鍼	習に向けて	最低限必要な鍼施術を	な知識と技行	析を学びます。また	察と鍼灸施術につい た、鍼通電療法や小児 こ合わせた施術ができ
授 業 の 展		ます。施術 習し、臨床 ロナウイル	機会をなる の流れを意 ス感染症対	べく多くしる 識した診察。 策を始め、加	ますが、施行 と施術を症 <sup>に</sup> を術者とし <sup>、</sup>	析に必要な診察技績 犬別の症例を提示↑	て実践的な施術を行い 術や患者対応なども学 しながら進めます。コ 里についても学習しま
自己学習の進	: め方	学概論の知 授業時間外	識を必要と	しますので、 を人体に行っ	積極的に	当該科目の復習を「	経絡経穴概論、東洋医 しておいてください。 が必要ですので遠慮な
授	業	内	容	(	予	定 )	合計 120時間
前	其	<b>朔</b>	<	16	週	>	前期計 64
1. ガイダンス							4
2. 基本刺鍼の復	<b>Y</b>						6
3. 鍼施術による							6
4. 身体各部への	<b>削鍼(上</b>	肢、下肢、	腰背部、頸	肩部)			12
5. 全身への施術							16
6. 臨床入門							4
7. 主な症状に対	する診察	と施術					
(1) 腰痛							14
8. 総括的評価							
9. 評価のフィー	ドバック						2
M	-44	н		1.4	\m		Δά <del>Β</del> α⇒ί ες
後 10. 主な症状に対	ナスシを		<	14	週	>	後期計 56
10. 土な症状に対 (2) 頸肩腕痛(							10
(3) 肩関節痛・脈							10
(4) 股関節痛・別							9
11. 特殊鍼法	まない						4
11. 特殊験伝	ーショ	/ 米雎床写	<b>全國指前图3</b>				16
13. 物療機器の体		-1- HIII/NJ		<i>T</i>			4
14. 所外施術所見							1
15. 総括的評価							1
16. 評価のフィー	・ドバック						2
100 нішу// 1	17.22	•					

						0 44 0	年度 教科指	4.11 阿耳				
	学		年					専門課程 2	2年			
	科		目				マ指応用実習	Ⅱ(臨床実	習前試験	等を含む)		
科	目	担	当	者				佐藤浩輔	甫			
単位	<b>数</b> •	年	間時	計間数				2 単位・6(	) 時間			
	<u>~~</u> 業	<u>'</u>		法				実技				
						/p /===================================	₩₩₩₩₩ ₩		╊ <del>┋</del>	大田最初でかり	~	
使	用	教	科	書		<b>沃烻埋</b> 獲	紧基礎実習 第	2版(都立)	<b>人</b> 从 盲字的	X理療科研究会	₹/	
使	用	参	考	書				_				
評	佰	fi .	方	法	します。肖	\$年末評価	学期末に実技記 は前期と後期の 点以上であるこ	○評価点の፯	P均点(小	>数点以下は切	受期の評価 り捨て)で	町点と です。
科目の	人概。	更と	学習	の目的	切かつ効果	艮的に行う負	な応用的あんり 能力と態度を値 等に関する評値	を得させる!	受業です。	:技能について また、臨床実	「学び、施術 経習前に施術	所を適 所実技
授	業	Ø	展	開	遭遇頻度の 年での臨り	つ高い愁訴に	こ習得したあん こ対する効果的 え、患者の主記 す。	りな全身ある	心摩施術を	練習します。	後期では、	3学
自己	学	習(	の進	め方	安定した 継続してく		維持するために	こ、日頃から	る基礎訓練	きとして各自で	・「畳押し」	等を
	授	į.		 業	内	容	(	予	定	)	合計 60	時間
		前				<	16			>	前期計	
(1)			別治					_				
			学分!								16	
(2)							する診察と施					
ア					頸肩腕痛	、腰下肢痛	、肩・膝の関	節痛)			16	
期末	<b>八</b>	(美	校지	腴)								
		後			切	<	14	週		>	後期計	28
(2)	)	日常	遭遇	しやすい	<b>小主な症候</b>	・疾患に対	する診察と施	術				
ア	運	動器	系 (	肩こり、	頸肩腕痛	、腰下肢痛	、肩・膝の関	節痛)			14	
イ	運	動療	法		-	-					2	
ウ	施	術に	併用	する物理	里療法						2	
(3)	)	臨床	入門								2	
(4)	)	臨床	実習	前試験	<del></del>						8	
期末	試験	(実	技試	験)								
		_	_	· <u></u>		\ <b>•</b> /	出 <b>以 </b>	HT ₹# 47 FA A	#4 F #	) - L 7 LO 44 OI D	12 + A 1881	- O PH

	学		年									
	•		<u> </u>					専門課程				
	科		目		į ř.	よりきゅう応	用実習Ⅱ(	臨床実習前	試験等を含	む) (きゅ	♪う実習)	
科	月	担	当	者			藤原太	樹(助手:		•)		
単位	数 ·	年	間時	間数				2 単位・6	0 時間			
授	業	の	方	法				実技				
使	用	教	科	書		<b>\$</b>	减灸実技 改	打第4版(ス	トリエンス	研究会)		
 使	Ħ	参	考	書								
- IX.	л	<i>"</i>	77	=								
評	佃	fi .	方	法	実技試験を	を実施し、平	Z常点は授業	態度により	評価 します	-。前期と後	け。学期末試験 後期の平均点を と課題で実施し	:学4
科目σ.	)概要	要と*	学習の	の目的	向けて最低	氐限必要なタ	叩識と技術を	学びます。	時に脈診と	:腹診、原ゲ	ついて、臨床類 で・兪穴・募ゲ いて学びます。	<b>署</b> で で参え
授	業	Ø	展	開	施術する構	幾会を多くし a床の流れる	ていきます	が、施術に	必要な診察	技術や患者	fいます。なる f対応なども重 E例を提示して	点
自己	,学 <sup>:</sup>	習 0.	進	め方			をは基づく施 いちの科目に				<b>命と経絡経穴</b> 機	統論
	授	<u> </u>		業	内	容	(	予	定	)	合計 60	诗間
		前		ļ	期	<	16	週		>	前期計	32
1. オ	トリエ	ニンテ	ーシ	ョン							2	
2. 基	本施	<b>値灸</b> の	復習								6	
3. 背	部兪	次の	取穴	と施灸	٤						6	
			診察	と施術	<b>ずの概要</b>						4	
5. 脈		<u></u>									6	
6. 腹	診										6	
7. 期	末記	-2481-4										
		/ ROPY										
8. 諱	評	(ABA)									2	
8. 諱	評	V RPX									2	
8. 静	<b>幹</b>										2	
8. 静	<b>替</b> 評	後		ţ	期	<	14	週		>	後期計	28
		後	〔穴治		期	<	14	週		>	_	28
1. 🏟	家募穴	後に、原	〔穴治		期	<	14	週		>	後期計	28
1. 兪2. 比	《募穴	後に、原		療		を		週		>	後期計 6	28
1. 兪 2. 比 3. 基 4. 臨	京夢 穴 上 乾 本 4 i 志 床 拍	後にいる。	肝虚、	療牌虚、弁証論	、肺虚、腎	虚)の取穴				>	後期計 6 6	28
1. <b>愈</b> 2. 比 3. 基 4. 臨 * 臨	☆募穴 上較脈 基本4 高床実	後に、診にいる。	肝虚、 よる 試験等	療 牌虚、弁証論等	、肺虚、腎	虚)の取穴	と刺鍼			>	後期計 6 6 6	28
1. 食 2. 比 3. 基 4. 臨 5. 所	京募 穴	後に、診には論がはない。	肝虚、 よる 試験等	療 牌虚、弁証論等	、肺虚、腎	虚)の取穴	と刺鍼			>	後期計 6 6 6	28
1. 食 2. 比 3. 基 4. 臨 4. 臨	₹募穴 全較脈 基本4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	後に、診には論がはない。	肝虚、 よる 試験等	療 牌虚、弁証論等	、肺虚、腎	虚)の取穴	と刺鍼			>	後期計 6 6 6	28
2. 比 3. 基 4. 臨 5. 所 6. 期	₹募穴 全較脈 基本4 指床実 に 所 大 ま に 形 れ に れ に れ に れ に り に り に り に り に り に り に	後に、診には論がはない。	肝虚、 よる 試験等	療 牌虚、弁証論等	、肺虚、腎	虚)の取穴	と刺鍼			>	後期計 6 6 6 6 2	28
1. 食 2. 比 3. 基 4. 臨 5. 所 6. 期	₹募穴 全較脈 基本4 指床実 に 所 大 ま に 形 れ に れ に れ に れ に り に り に り に り に り に り に	後に、診には論がはない。	肝虚、 よる 試験等	療 牌虚、弁証論等	、肺虚、腎	虚)の取穴	と刺鍼			>	後期計 6 6 6 6 2	28
1. 象 2. 比 3. 基臨 4. 臨 5. 所 6. 期	₹募穴 全較脈 基本4 指床実 に 所 大 ま に 形 れ に れ に れ に れ に り に り に り に り に り に り に	後に、診には論がはない。	肝虚、 よる 試験等	療 牌虚、弁証論等	、肺虚、腎	虚)の取穴	と刺鍼			>	後期計 6 6 6 6 2	28